

# 革命の旗

共産主義者同盟  
(革命の旗)  
中央機関紙

第 31 号  
1981.1.1  
特価 300円  
(毎月5日・20日発行)

発行人 北 沢 晋  
発行所 赤 流 社  
電話 (03)787-7699  
東京都世田谷区千歳  
郵便局 私書箱4号  
振替 (東京)7-86947

年間定期購読料  
開封2500円(送料共)  
密封3000円( )

## 第1新年号

今号の主な内容

- ▽ 2面 ..... 政治局声明
- ▽ 3面 ..... 労働運動
- ▽ 4面 ..... 新年インタビュー
- ▽ 5面 ..... 寄稿
- ▽ 6面 ..... 「戦後農政の歴史」
- ▽ 7面 ..... 日韓連帯闘争特集
- ▽ 8面

第二新年号の  
お知らせ

次号(通巻32号)は  
第二新年号として六ペ  
ージで一月二〇日  
に発行します。

## 年頭アピール

全国の労働者、農民、学生諸君、共産主義者同盟(革命の旗)中央委員会は八一年に向けた戦闘宣言をもって、新年のあいさつにかえたいと思います。

すぐる八〇年は、現代が「戦争と革命の時代」であることを一つ一つの政治的事件はしめしました。ソ連のアフガン侵略、イラン・イラク戦争、南朝鮮人民の光州蜂起、ポロランド人民の全国的決起、米帝のイラン侵攻・レーガンの登場、わが国でも大平不信任案と衆参同時選挙、自民党体制による鈴木政権の登場、これら全てが歴史的变化―激動への端緒をしめしました。

全世界の労働者・被抑圧民族は、銃を持ち、または徒手空拳で解放を希求している。インドネシア、フィリピンでは再び解放の波が高まっている。われわれ日本プロレタリアートにとって、限りない勇気を与え、しかし厳しい問いかけを發した南朝鮮人民の光州蜂起のすさまじさ、民族の血叫びをわれわれの脳裡から消し去ることはできない。七〇年におよぶ朝鮮人民の民族解放闘争のなかで、いま再び「武装蜂起しかない」と語った光州市の労働者の姿、チヨゴリを着た六〇歳の老婦が身体をはって特戦団の前にすすみだした姿を！

日本プロレタリアートよ、わが責務をプロレタリア解放の思想で武装し果そう。熱き血潮に燃える青年よ、わが頭上におおいかぶる戦争と反動の嵐にたち向かおう。日本の未来を社会主義の赤い岩につくりかえるときだ。

わが同志達。革命的な大衆行動の準備に全力をそそげ！社会主義の要求を労働者階級・人民のなかに組織し、闘いの先頭にたとう。プロレタリア階級独裁の準備は荒々しい闘いのなかでつくりだされるものである。深く人民と結合せよ！万国の労働者・被抑圧民族団結せよ！日本プロレタリアート万歳！共に一歩を。

一九八〇年一月一日

共産主義者同盟(革命の旗)

中央委員会

# 路線を深め組織を鍛え 勝利に向けた団結を！



## 金大中氏らへの

## 死刑攻撃阻止！

## ソ連社会帝国主義の

## ポーランド侵攻策動弾劾！



朝鮮人民に学び、階級闘争の中で

同盟を鍛え、革命へ前進しよう

共産主義者同盟(革命の旗)

中央委員会政治局

すべの同志友人諸君

八〇年代は本格的な戦争と革命の時代である。この序曲は、六〇年代後半より始まり、七九年のベトナムのカンボジア侵略、併合、ソ連のアフガニスタン侵略によって本格的に幕があげられ、そして他方ではイラン革命、ニカラガ革命

レーガンの登場と

戦争の危機の増大

われわれは結成一周年記念論文の情勢の基本特徴を踏襲し、更にこの間の重大な変化・転回を軸にして国際・国内情勢を明らかにしよう。

米大統領選挙でレーガンが現職のカーターを大差で破り地すべりの大勝をした。このレーガンの勝利は、ベトナム以降後退を重ねてきた米帝の巻き返しの野望になったものであり、願望の吐露である。

米支配階級はカーター戦略のソ連帝との対立と協商の方策に不満をつのらせ、全面的対立へと転換すると同時に、他方第三世界人民の反帝反殖権の民族解放闘争の抑圧に本格的に乗りださんとして

それは米帝がベトナムで敗戦して以降、かつての世界の憲兵としての米帝一元支配が崩壊し、後退を強いられていた現状の打破をめざすものである。この後退局面を更に後退させたのがイラン革命の勝利であり、ニカラガ革命の勝利である。更に絶大な影響力を保持していた中東においてイラン革命の失地を回復するための冒険であった人質救出作戦を完全に失敗すること明らかになったのである。米帝は、この失地回復をキヤンデービットでイスラエルとエジプト

の和平協定のおぜんたてをする中で中東での若干の影響力の保持に汲々としており、今日のイラン・イラク戦争に何の影響力も行使することができず、せいぜいこの混乱に乗じてサウジア

の勝利、そして南朝鮮人民の反日反米反独裁の民族民主革命の前進という第三世界人民の民族解放闘争の反ソ反米反殖権の国際人民闘争の大高揚を生みだしている。

ソ連の覇権争奪が強まり第三次世界大戦の危機が強まっている。今日の情勢の基本的特徴は、ソ連・超大国の覇権争奪の激化と日・西欧帝の体制的危機の深まり、そして他方での第三世界人民の反帝反殖権闘争がいよいよ勢いを増している。このような大きな流れが複雑にからみあ

ンは帝国主義の本性である力の政策による戦争で威信を回復することを主軸にしている。

それは、逆にいえば米帝の体制的危機の深化が、もはや時間かぎりを許さず急なところまで深刻になっていること証左であり、その突破を帝国主義戦争によってなさんとしているのである。

アメリカ経済は、全世界的規模での民族解放闘争の高揚によって権益を失ない、他方西側諸帝の世界的市場分割の角逐という追い上げによって、インフレが増え高まり、失業者が増え、実質的な経済成長率がマイナスに転落し、遂にはマイナス一〇%近くまで落ちこんでいる。このマイナスの経済成長率が示す独占に固有の停滞と腐朽化を突破し、活性化を図るためにレーガンは、軍需スパンディングによって乗りきらんとしている。

かつてカーターは、石油、鉄鉱、自動車および航空機等の国際競争力を低下させた不況産業である重化学工業に力を入らず、多国籍企業と金融資本に立脚し、むしろ先端技術産業、原子力、航空宇宙、電子工業に力を入れることによって国際競争力を強め、経済成長を図らんとしてきた。また相対的に上昇してきた西側諸帝の過剰資本を米帝への資本投下と独自の軍事力増強にむかわせることで米帝の支配を保持せんとしてきた。

しかし日米自動車戦争にみられる不況産業の停滞は、レイオフによる失業者の増大という深刻な事態と同時に、インフレの昂進によって深刻化し、ついにはカーターは政権を投げださざるをえなかった。レーガンは、これを軍需スパンディングによって、兵器生産を活発化し、その裾野である諸々の不況産業の底上げを図っていくことを第一とし、ソ連帝に対して軍事の優位をつくりだすため、他方米帝の対ソ戦略にそって軍備強化を図る西側諸帝主義兵器輸出を進めていくのである。

このようなレーガンの対ソ巻きかえし戦略の基本は、国内において政治反動を強め階級闘争の激化をおさえ、力の政策に基いて着々と帝国主義戦争の準備を進めていくことである。

ソ連の覇権争奪の激化とともに日帝の体制的危機が深まり、帝国主義戦争の本格的準備としての政治反動の強化、挙国一致体制づくりへと突入している。

日帝は、レーガンの登場によってカーター時代よりはより鮮明に米帝の対ソ戦略の一翼を担うことになる。まず第一に南朝鮮の全軍事政権の肩入れによる南北分断固定化を図り、第二に戦略物資である石油確保のために中東における権益を擁護するために、日米安保体制を強化し有事即応の臨戦体制づくりへと進んでいく。日帝は、米帝の体制的危機突破のための国際的蓄積構造産業再編に

対応させ、政治的軍事再編を推進しつつ、アジアにおいて米帝に代って対ソ戦略の主力を担い、二流帝国主義である日米安保体制の枠内で勢力圏の拡大を図りつつ地域的な侵出をどげようとして

放闘争として闘われている。ソ連帝は、自らの足下で生みだされた反ソ民族解放闘争の抑圧のために、かつてのハンガリーやチェコと同じように「帝国主義者の陰謀」を吹聴することによってポーランド支配階級に対するどう喝を強めながら軍事介入による闘いの圧殺をもくろんでいる。また今日、東欧諸国のなかで工業化が進み、最も力を蓄えてきた東独によってポーランドは、ソ連帝と鉄道を含めた交通の要地ならびに通商地であり、そしてまた、自国への影響の拡大に恐怖し、ポーランドの反ソ民族解放闘争の圧殺についてはソ連帝と利害が共通している。それ故、東独はソ連帝とともにポーランド強硬路線を打ちだし、国境を条約軍の演習の名のもとにさまざま軍事挑発を繰り返しかえし、軍事介入のチャンスを狙っている。しかし、反ソ民族解放闘争の波は、古くはユーゴ、ルーマニア、ハンガリー、そして六八年のチェコスロバキア、ポーランドと高揚しつづけ、ソ連帝のあらゆる軍事的統制を突き破って進んでいく。

このような米帝ならびにソ連帝という戦争の策源地の矛盾の激化は、帝国主義間の協商によって隠ぺいすることがもはや不可能であり、その本性である対立の側面が強まることによってソ連覇権争奪の激化、つまり第三次世界大戦の危険性が日々強まっていることを示している。

このような戦争の要素の飛躍的増大にともなう反ソ反米反殖権の国際人民闘争が高揚し、民族解放闘争が全世界的に拡大し、また革命の要素が強まっている。それは次のことに明らかになっている。反日反米反独裁の南朝鮮人民の民族民主革命の前進が、全独裁政権の光州蜂起への血の弾圧や金大中氏らの「死刑」攻撃によっても、もはや押しとどめることはできないということ。

今日のイラン人民、ポーランド人民、南朝鮮人民の民族解放闘争の前進は、ソ連の覇権主義に一大痛打を及ぼせるものである。

このような第三世界人民の反帝反殖権の闘いは、帝国主義本國の労働者階級人民の決起を呼び起こしている。南朝鮮人民の決起が日本の労働者階級人民の連帯の闘いと結びついた自國帝国主義打倒の政治闘争を生み出すと同じようにポーランド人民の決起は、西側帝国主義の労働者階級人民に戦争に備え、革命的祖國敗北主義の態度を強固することを要求し、更に被抑圧民族との団結の重要性を示した。そして第三世界人民の後方を形成している社会主義國、特に朝鮮民主主義人民共和國では、対外的には反帝主義の非同盟運動を強め、国内社会主義建設においてはプロ独・継続革命をおしすすめている。そして南北自主的平和統一に向けて七・四共同声明をふまえた具体的提案を行って、他方中国は対外的には反ソ反殖権統一戦線戦術によって一定の戦争をおしとめる有効性をもちつつも国内社会主義建設では、「生産力第一」のもとに、とするとプロ独・継続革命を後退させることによって、かつてのような第三世界人民の影響力は弱まり、後退している。しかし全体としては、第三世界の反ソ反米反殖権の国際人民闘争と帝国主義國の国際人民闘争に連帯し、自國帝国主義打倒の闘い、そして社会主義國のプロ独社会主義継続革命の三プロットの革命が前進している。まさに今日の国際情勢は、世界史的転換ともいへべき一大激動をつくりだしている。

南朝鮮人民の決起連帯・南北自主的平和統一支持を

このような米帝ならびにソ連帝という戦争の策源地の矛盾の激化は、帝国主義間の協商によって隠ぺいすることがもはや不可能であり、その本性である対立の側面が強まることによってソ連覇権争奪の激化、つまり第三次世界大戦の危険性が日々強まっていることを示している。

日米安保体制下における日帝の戦争準備

米帝が産業構造の再編によって原子力、航空宇宙、電子産業を軸として国際競争力をつけ、主導権の確保をめざすことに対して、日帝も産業構造再編を図り、独自の国際競争力をつけることが要求されていた。しかし構造的な不況とインフレの昂進を抜けだすことができず、史上最高の企業倒産、百万人をこえる大量の失業を生みだしている。

このような危機がすでに明らかであるに体制的世界史的なものである以上、日帝独自の解決などとは不可能であり、ソ連の覇権争奪の激化にともなう安保体制のもとに米帝の世界戦略と同一歩調をとらざるをえない。

日帝は、体制的危機の突破のため米帝と同じように軍事スパンディング政策をとらうとしている。八一年度予算のなか

に、せいぜいこの混乱に乗じてサウジア

の勝利、そして南朝鮮人民の反日反米反独裁の民族民主革命の前進という第三世界人民の民族解放闘争の大高揚を生みだしている。

ソ連の覇権争奪が強まり第三次世界大戦の危機が強まっている。今日の情勢の基本的特徴は、ソ連・超大国の覇権争奪の激化と日・西欧帝の体制的危機の深まり、そして他方での第三世界人民の反帝反殖権闘争がいよいよ勢いを増している。このような大きな流れが複雑にからみあ

前ページ下段からつづく  
国家予算に対する要求を求めれば、至らざるを得ない。  
赤字国債の発行はインフレの昂進を層層激化させ、そのうえ増税による軍事的苦役を労働者階級人民へ課すものである。

### 「連合政権」 ——右翼的労働統一粉砕！

このような戦争準備体制の確立は、官僚・警察・軍隊の軍事的支柱の整備を行ない、特に自衛隊の量的・質的強化を軍事費の増大によって図っている。それと同時にブルジョア階級は「国家の命運をどうにかするのぞき」という攻勢をかけた。ブルジョア階級の過剰利潤によって買収されていく労働者階級も都市ブルジョア階級の動搖を引き出し、彼らを「安保・自衛隊の擁護者」とかりたてている。今日の安保・自衛隊問題は、まさにブルジョア階級独裁国家の根幹をなすものであり、それ故に国家と階級の相互関係を一層明らかにする鏡となつていく。

### 社共のギマンを 暴露せよ

「連合政権」形成への社共路線の中心軸を自負していた社会党は、かつての五五年体制を自覚して、反戦平和の過剰利潤のおぼれで育成された労働貴族の社会民主主義者の中核として、自らの地位を確保するために右翼的「労働統一」にむけて進んでいる。この右翼的「労働統一」は、労働組合運動における単なる労働統一ではなく、「連合政権」と結びついているので、社会党は、「非武装・中立」政策と「安保・自衛隊容認」のあいだで動揺せざるを得ない。今日の社会党は、綱領的文書である「道

### プロ単一党創建にむけた 統合・団結を前進させよう

このような議院政治の根本的動揺は、ソ米覇権争いが激化する事によって、従来の小ブル平和主義の「戦争に巻き込まれるな」の主張をブルジョア階級から「国家の命運をどうするか」という突きつけに対して有効性を保持できず、正しくブルジョア階級独裁国家を打倒し、プロレタリア階級独裁の樹立と社会主義の執行をたてず、ブルジョア階級独裁の国家を公然、隠然と擁護する側にまわっている。このような動きに反対して、



の改定によって、社共路線の道を開いている。すなわち、帝国主義の危機をいっそう促進させるのでなく、むしろ危機の延命のための様々な改良の方策を提起することにある。

このような社会党の右転換に即応して、右翼的「労働統一」に突きすすんで社会党のかつての位置に横すべりせんとしているのが日共である。彼らは、社会党が「安保条約を容認し、非武装・中立政策を投げ捨て、ようとしていた時期を狙って「非同盟・中立」政策と「統一労働組合」によって左翼的ポーズをとり、労働者階級を欺瞞せんとしている。

### 革命的な反戦闘争、 三里塚決戦の爆発を準備せよ

われわれは、日帝の戦争準備に対して革命的な反戦闘争の組織化を積極的に推進してきた。

今日の日帝の戦争準備のための軍国一致体制づくりのための政治的対決は、労働者階級・人民の闘いが、全戦線でもまきおこっている。その主眼である反戦闘争をよりいっそう高揚へと向かわせ、

### 戦争と反動の嵐に抗す 革命の主体的準備いそげ

すべての同志・友人諸君、今日の日帝の体制的危機のよりいっそうの深刻化と、ソ米の覇権争いの激化に連動した日帝の戦争準備のための政治的対決、差別・抑圧・収奪が激まり、これに屈した修正主義、現代修正主義をブルジョア階級独裁の擁護へと動員し、

われわれは、八〇年の党活動を総括して、この闘いの重心方向を何点かにわたって、われわれの政治任務として次のように定式化しよう。

第一に、ソ米覇権争いの激化、日帝の戦争準備に反対する革命的な反戦闘争を大胆に組織し、革命の大衆行動の舞台をつくりだすこと。帝国主義戦争とは三重の奴隷制の維持・強化をめざすこと、つまり賃金奴隷制の強化、国内の少数民族の差別・抑圧（沖縄人民抑圧、アイヌ抑圧）そして植民地人民の抑圧・収奪を強めることに全面的に反対するわれわれの布陣形成である。

結果を図り、階級的労働運動の新たな芽ばえを育てていくこと。それはなによりも正規の攻取戦術のもとに工場細胞をつくりだし、われわれの出撃拠点をつくりだしていくことが、わが同盟にとって極めて重要な課題となっている。

われわれは革命的な反戦闘争の組織化の過程でつくりだした革命的政治による細胞活動の転換のもと、労働運動の主戦場での政治闘争と経済闘争を結合させることである。そしてまた労働運動のなかで今後進むであろう階級的労働組合運動の統一にむけたゆるやかな結合に目し、その発展の担い手となることに他ならない。

### 人民の中へ—— プロ独の準備を

われわれは以上のことを真に実現するために八〇年の党建設のなかから導き出した若干の教訓から八一年の党建設を展望しよう。

今日の革命的な本格的な接近は、革命の客観的条件をますます成熟させている。しかしながら革命情勢をプロレタリア階級の側につくりだすべく革命の主体的条件をつくりだすことにはまだ成功していない。そのためには、単一のマルクス・レーニン主義の全党の建設がぜひとも必要である。われわれは結成大綱以降、統一のための六条件を明示し、今日の焦眉の課題であるとともに先進的労働者の熱望である統一を注ぎ、マルクス・レーニン主義の第三次プロレタリア革命のなかで、

われわれは、自力更生の党建設による全国化を強化するとともに、統一に力を注ぎ八一年の早い段階に単一のマルクス・レーニン主義の全党創建の基礎をつくりださなければならない。

八一年を日本階級闘争の歴史的な年にすべし。この闘いが、わが共産同（革命の旗）とともに闘い抜かれんことを訴える。





# 全ての工場、地域を



亀戸事件葬儀出発の前に (前列左から六人目が渡辺政之輔)

前ページ下段からつづく  
二五年五月の評議会創立時に  
は総同盟の三分の二をまきこ  
む三三組、一万三千六百人と  
いわれる組合員数を擁するに  
至るわけですから、渡辺氏の  
記述はけつて誇張ではない  
と思うんです。こうした点に  
ついて松岡氏自身の総括と  
いいますか、お考えを聞かせ  
ていただきたいのですが……

「総同盟が割れて評議会ができたことについては色々な意見がありますが私の考えではそれは不可避であつた結果的に見て決して悪いことではなかった……とにかく左翼が思う存分活動できたから左翼の組合も伸びたし活動家もうんとつくれた……それが右翼のなかについて、それこそカゴの鳥になつていたらそういう活動分子が出てくるとか、いい結果はなかつたんだらうと思うんです。ですから総同盟の分裂というのはマイナスの面がなかつたわけではなかつたけど左翼の活動家を思う存分活動させるという意味で積極的な意義があつたと思つてますね」

## 特高警察の監視と 弾圧の中での活動

「私は徳球さんの家につづいてたんです。書生として。徳球さんという人は気骨のある人でね。浅草の須田町一番地に住んでたんですが当時は特高警察の常尾行がついていて、はなれないんですよ。朝起きると家の前でステッキもつて立っているんです。そして『先生、今日はどちらへお出かけですか』というわけで(笑)。それをまく技術が達者でなければダメなんです……」

「私は徳球さんの家につづいてたんです。書生として。徳球さんという人は気骨のある人でね。浅草の須田町一番地に住んでたんですが当時は特高警察の常尾行がついていて、はなれないんですよ。朝起きると家の前でステッキもつて立っているんです。そして『先生、今日はどちらへお出かけですか』というわけで(笑)。それをまく技術が達者でなければダメなんです……」

「私は徳球さんの家につづいてたんです。書生として。徳球さんという人は気骨のある人でね。浅草の須田町一番地に住んでたんですが当時は特高警察の常尾行がついていて、はなれないんですよ。朝起きると家の前でステッキもつて立っているんです。そして『先生、今日はどちらへお出かけですか』というわけで(笑)。それをまく技術が達者でなければダメなんです……」

「私は徳球さんの家につづいてたんです。書生として。徳球さんという人は気骨のある人でね。浅草の須田町一番地に住んでたんですが当時は特高警察の常尾行がついていて、はなれないんですよ。朝起きると家の前でステッキもつて立っているんです。そして『先生、今日はどちらへお出かけですか』というわけで(笑)。それをまく技術が達者でなければダメなんです……」

## 共産党の労働運動への指導 ——工場の中へ——

「レフトと言えは文字どおり左ということであつたわけはそれを労働組合のなかのフラクションといつてしまつたが、大衆の労働組合の中に左翼の分派というフラクションをつくつて、それをよりどころとして左翼が勢力をのばすと

「レフトと言えは文字どおり左ということであつたわけはそれを労働組合のなかのフラクションといつてしまつたが、大衆の労働組合の中に左翼の分派というフラクションをつくつて、それをよりどころとして左翼が勢力をのばすと

「レフトと言えは文字どおり左ということであつたわけはそれを労働組合のなかのフラクションといつてしまつたが、大衆の労働組合の中に左翼の分派というフラクションをつくつて、それをよりどころとして左翼が勢力をのばすと

「レフトと言えは文字どおり左ということであつたわけはそれを労働組合のなかのフラクションといつてしまつたが、大衆の労働組合の中に左翼の分派というフラクションをつくつて、それをよりどころとして左翼が勢力をのばすと

「レフトと言えは文字どおり左ということであつたわけはそれを労働組合のなかのフラクションといつてしまつたが、大衆の労働組合の中に左翼の分派というフラクションをつくつて、それをよりどころとして左翼が勢力をのばすと

「レフトと言えは文字どおり左ということであつたわけはそれを労働組合のなかのフラクションといつてしまつたが、大衆の労働組合の中に左翼の分派というフラクションをつくつて、それをよりどころとして左翼が勢力をのばすと

「レフトと言えは文字どおり左ということであつたわけはそれを労働組合のなかのフラクションといつてしまつたが、大衆の労働組合の中に左翼の分派というフラクションをつくつて、それをよりどころとして左翼が勢力をのばすと

「レフトと言えは文字どおり左ということであつたわけはそれを労働組合のなかのフラクションといつてしまつたが、大衆の労働組合の中に左翼の分派というフラクションをつくつて、それをよりどころとして左翼が勢力をのばすと



官憲の立会いのもと労働者集会

「二七テーゼをうけたことが、工場細胞を基礎として党を再組織する方向にすすんだ根拠である」とあるのが、工場の中へ」というスローガンと工場細胞ということが結びついて提起されているわけですね。  
「ええ、工場細胞というのがあつて、その外かとして工場委員会というふうになつて……工場での活動の中核となるのが工場細胞で、工場細胞というのは党の末端組織で党の単位になる組織ですからね。これはもう非常に人数も少ないし厳選されていたわけですね。」

「レフトと言えは文字どおり左ということであつたわけはそれを労働組合のなかのフラクションといつてしまつたが、大衆の労働組合の中に左翼の分派というフラクションをつくつて、それをよりどころとして左翼が勢力をのばすと

「レフトと言えは文字どおり左ということであつたわけはそれを労働組合のなかのフラクションといつてしまつたが、大衆の労働組合の中に左翼の分派というフラクションをつくつて、それをよりどころとして左翼が勢力をのばすと

注(1) 神戸の川崎造船所の大スライキ 一九二一年、友愛会神戸連合会の賀川豊彦の指導の下に開かれた大スライキで、神戸会が多く労働運動に活動家を送り出したの比して農民運動に活動家を輩している。  
注(2) 新人会、建設者同盟 新人会は一九一八年、東大法科生華々しく労働運動を席捲した。赤松克麿、宮崎龍介らが「現注(4) 渡辺政之輔 渡辺政之輔の赤松克麿、宮崎龍介らが「現注(4) 渡辺政之輔 渡辺政之輔の最高指導者の一人。新人会に参加し、東京東部の地で新人セルラ運動・団体の中に持ちこまれ「ラシー」を発刊した。ここから頭で警官に包囲され死亡(自殺)した。



# 日本農政の歴史

## 農地改革以降の農業政策と農民の状況

三里塚・農民

加瀬勉

寄稿

加瀬勉氏は、富里地区に空港が計画されたときから全日農のオルグとして活動され、いま四〇歳前半を迎えている。氏は編集委員と作家方法、農民運動の実際の中から語られ、われわれの運動の欠陥をも鋭く指摘、批判された。本稿を通してこの貴重な教訓に学び労働者階級の闘いと結びつけていきたい。(文中小見出しは編集部)

## (1)日本の農地改革

戦後の日本農業を考へる場合は、何となく農地改革である。この農地改革はさまざまな曲折を経たのち、アメリカ占領軍司令部からの勧告のもとに、一九四六年秋に国会で成立した自作農創設特別措置法、および農地調整法にもとづいて実施された。

戦前、耕地のなかば近く(四六%)を占めていた小作地の約八割(一九〇万ヘクタール)を、地主の手から農民の手に移し、全耕地の九割を自作地とした。同時に農民のほぼ三割が小作農、四割近くが自作農となり、小作というものが全廃された。これは、戦前と比べて七割までが小作関係にまきこまれていたものを、逆に七割ないしそれ以上を自作農とし、純然たる小作農はわずか五%以下に減少させた。また、残された一割ちかくの小作地の小作料も、高率現物小作料(収穫物の五割以上)に及ぶ)の搾取関係をなくして低率・金納小作料とし、農地の移動をきびしく制限して地主にたいする農地の集中を防ぎ、農民の耕作権を保護した。

## 戦後革命へのくさび

しかし、日本の農地改革は、たしかに戦前から農民の切実な土地要求の闘争があり、また日本資本主義の発展にとつて地主的土地所有が阻害物となり、大正九年からの小作制度調査会の自作農化の動きがあり、また第一次農地改革案、松村一和田一東畑の発案があり、戦後の労働者農民の徹底した民主主義の闘争の高揚が農地改革に反映しているのだが、直接指導を施したのはアメリカ帝国主義の占領権力と日本政府であり、米日支配層の立場からその必要と範囲と



農地改革ポスターを見る農民

自作地と小作地	自作地	小作地
1938年(昭和13)	53.3%	46.8%
1949年(昭和24)	67.0%	33.0%

自作農と小作農	自作農	小作農
1938年(昭和13)	30.0%	44.0%
1949年(昭和24)	59.0%	36.0%

経営別比率	5反以下	5反-10反	10反-20反	20反以上
1941年(昭和16)	32.9%	30.0%	27.0%	9.1%
1950年(昭和25)	40.8%	32.0%	21.7%	3.5%

(注)1反=9.917アール 10反=1町  
農地改革表(農林省統計局資料より)



66年7月4日

政策としての日本の農地改革は、真に徹底した農業革命と民主主義に立脚した土地配分を行なつて、日本の農民を解放するものではなかつた。

敗戦によって崩壊し、危機にひんした日本資本主義をアメリカ帝国主義の従属のもとに再建し、アメリカの極東戦略のなかに、日本を反共・反革命の最前線基地として強化することに、真のねらいがあつた。

それは第二次世界大戦後の社会主義国の出現、民族独立闘争の発展と資本主義国における階級闘争の前進にたいし、アメリカが日本に政治的の拠点を確保するのを阻止する必要を痛感した関係上、改革の政治に及ぼす影響が関心の的となつた。

「農地改革法起草者が国内の政治事情を安定させ共産主義が国内の実施着工にあつたのは各皇族を、この三里塚の農民の日常の行為のなかに私にみるのである。

## (2) 占領下の農政

アメリカ帝国主義の直接占領下にあつた農政の基調は低米価、多強権発動、重税を基軸に農業・農民に対する国家的収奪があつた。この激しくおこなわれた時期であつた。

## 新年のあいさつ 共産同(の旗)に期待する

紙面の都合上、一部略させていただきます。

### 反対同盟事務局長

### 北原鉞治氏

八一年をむかへ、革命の旗紙を通じて、北総台地三里塚より闘う同志へ連帯のことばをおくります。

### 東峰団結小屋

### 現闘団

新年のごあいさつを申し上げます。東峰団結小屋は七七年の小屋建設以来、三里塚農民の闘いを熱烈に支持し、微力ながらも闘つてまいりました。そしてこの中で実に多くのことを学んできました。

### 東峰部落反対同盟

### 島村良助氏

八一年の年頭にあたり、東峰反対同盟のあいさつを送ります。十五年間の闘いを闘いぬいたなかで、当初、軍事空港あるいは農地取りあげということ、たちあがったわけですが、三里塚空港は第一次代執行・第二次代執行をみたなかで、機動隊による力をもつて、既成事実がつかせられ、三里塚にたつたのです。

### 三里塚空港反対同盟

### 小西同志虐殺弾劾真相を糾明する会

小西同志が何者かに虐殺されたからすでに八月が過ぎようとして、この間の、多くの先進的労働者の協力に對して、心から感謝の意を表したい。われわれは八一年を迎えるにあつて、この荒々しい戦争と革命の時代を小西同志とともに闘うことができないことに、今さらながら無念の思いをかみしめている。

### 在「本土」

### 沖繩青年

在「本土」沖縄人として、新年のごあいさつを申しあげたいと思ひます。新年おめでとうございませう。

### 在「本土」

### 沖繩青年

八〇年に入り、民族の明るい未来を創造して闘っている被抑圧民族の闘いと、悪魔の世界にひきずりこまうとしている帝国主義が激突する、激動の幕開けでありました。

### 在「本土」

### 沖繩青年

こうした中で、いったい何をすればいいのでしょうか。沖縄の闘いに「慶良間見(ケラミ)いしがまっげいらん」というのがあります。それは、本島から海をへだたぬ慶良間島という遠いところは見えるけれども、目前にあることには気がつかぬという意味でしょう。





# 抑圧民族内のプロレタリアにとつて国際主義とは何か

先日、A地方で金大中氏救出運動を闘っている活動家B君から、編集部あてに通信が寄せられました。これについて日朝人民連帯を闘っている同志によって「返信」が書かれています。通信の骨子は、金大中氏救出運動の状況と彼が属している団体の活動、討議内容が示され、今後の闘いをどうすすめていけばいいのか、であります。高まりつつある「金大中氏救出の闘い」のなかで、プロレタリア国際主義を發揮していくのか、という問題に焦点が当てられていました。この問題は今日、日朝人民連帯の確立を第一歩とするために非常に重要であることにかんがみ「返信」を公開し、全国の同志、読者諸君の討議に付したいと思ひます(編集部)

B君手紙がどう。君のいつもながらの奮闘には心から敬服します。私の方もこの数ヶ月、日朝人民連帯闘争であちこち出かけ、多忙をきわめてきました。返信が送られて申しわけありません。さて、君の手紙の内容の件ですが非常に興味深く、かつ日本の朝鮮人民連帯の闘いのうずがやと拡大してきたという思いで読みました。君が悩んでいる「金大中氏救出運動を通じて真に朝鮮人民との連帯を追求する」という問題提起について、私の考えていることを少し書いてみたいと思ひます。まず安採体制と今日の日朝関係について書きながら、この問題に入りたいと思ひます。

## 公開書簡

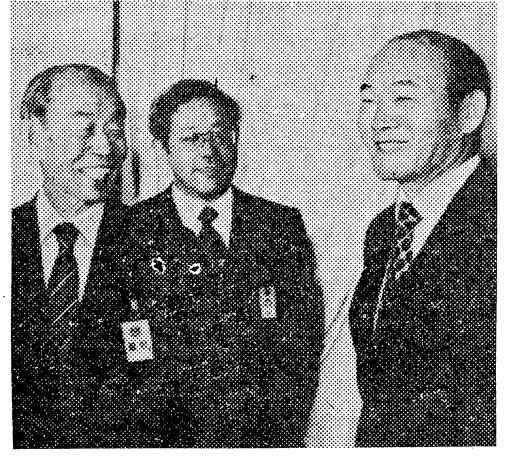
# 朝鮮人民に連帯する

# われわれの闘いと主体を

## 金大中氏救出運動を通じて真に朝鮮人民との連帯を追求するためには...

つて当然のことです。まして、アメリカとしては朝鮮半島の「緊張状態」それは南朝鮮人民の民族解放運動の高揚も含まれていまして、これは対抗上このましくないと、レーガンが就任する以前に「金大中氏救出」として流されていまして、あなたが誤ったものとはいえないと思ひます。多分こんどの「旗のトップで主張されると思ひますが、レーガンは対軍事解決を基軸に外交政治を行使していくことを表明しています。このことは対ソだけでなく、例えばカーターがイランやニカラグア、エルサルバドルで失敗したことをふまえて、植民地国の民族解放闘争に対しても政策の転換に

# 日帝打倒・米帝追放の闘いを!



とです。光州蜂起という都市での人民蜂起は、戦後のアジアでは唯一のことといわれています。この蜂起では労働者が主要な役割を果し、特戦団との戦闘にはそれこそ市民が、中小企業家、最後には警察関係者と予備役の軍人まで参加したと伝えられています。詳しいことは明らかにされていませんが、これ以前の釜山

## 日帝の植民地支配の破棄をめざす行動を準備することこそ問われている

シヨ批判であり、日本もこうならないための運動として「赤旗」ではありつつも、少くも前には、勝共連合は韓国へ帰れ、と憶面もなく叫びました。まさに帝国主義の「城内平和」に犯された民族排外主義の思想です。たしかに大衆闘争の方向としては徹底的に日本政府をつきつけていく、その意味では「金大中氏の政治決着をついていく」とも一つの戦術です。しかし、この戦術を支える思想こそ問われているといふべきです。金大中氏になんらかの処置が下った後、この「国民運動」としての大衆運動は続くでしょうか。南朝鮮人民はつづけるでしょうか。なぜなら、彼らの兄弟姉妹や親、親類として同胞が金大中氏と同じように獄中であり、抑圧されているから。そしてなによりも彼ら自身が歴史の鼓動をたたくてつづけているから.....

抑圧民族、すなわち、いわゆる「強大」民族にとつての国際主義とは、諸民族の形式的平等をまもるだけでなく、生活のうちに現実に生じている不平等にたいする抑圧民族、大民族のつぐないとなるような、不平等をしのぶことではない。このことを理解しなかつたものは、民族問題にたいする真のプロレタリア的態度を理解せず、実は小ブルジョア的見地にどまっています。のであり、したがって、たえずブルジョア的見地に転落せざるをえないのである。プロレタリアにとつてはなにが重要か? プロレタリアにとつて重要であるばかりか、ぜひとも必要なことは、プロレタリア階級闘争にたいする異民族の最大限の信頼を確保することである。このためにはなにが必要か? このためには、歴史上の過去に異民族が「強大」民族の政府からこうむつた不信、疑惑、侮辱を、異民族にたいするその態度により、その譲歩によつてなんとかしてつづぐなうことが必要である。——レーニン 一九二二年

馬山の闘いも数万人が決起したし、労働運動でも非常に民族的団結と進歩が民主化の観点でうたがわれています。よく民族の将来、民族の命運という言葉をおかしている立場とはなにかと鋭く反省させられます。私達の運動は「彼らになにかをしてやる」というものではないでしよう。してやる」という気持には、植民地の強奪、収奪にあぐらをかいてきた帝国主義国内の「余裕」さえ感じられるものです。

B君、君も指摘するように「金大中氏救出」の闘いは民主主義運動です。しかし、朝鮮人民のその民主主義運動は、明らかに日本のものとは質的に異なっています。現在の日本の救出運動はどのようなものでしょうか。

いま、金大中氏救出運動は社会を含め大きな「国民運動」です。だから、これをもつてつづぐなうべきではないし、拡大させるなかで日本人民の民主主義の意識を徹底してほりさげ、問い返していかなくてはなりません。この運動には様々な意識をもつた人々が参加してきています。そのもつともい例が社共の闘い方、意識です。社会党は「金大中氏救出」を主張し組合員をやっています。組合指導部などは先頭に立ってはいませんが、もつともひとりの日共です。たしかに大衆運動としては街頭のみかまします。だがその内容たるや、全斗煥の軍事ファッ

史の結節点です。日本人民は敗け、朝鮮人民は前進し戦前・戦後を通じて民族解放の歴史として、彼らの言葉・行動になつていきました。私達も私達の闘いの、それこそ人民の闘いの歴史とその言葉をもたねばならぬいし、その歴史の転換期を迎えています。今こそこのことを意識し、行動のなかに

州に至る全国の闘いが報告され、さらには首都圏で日本政府に対する抗議闘争を闘つてきた労働者、学生代表から報告が行なわれ、発言者は抗議闘争に対する国家権力の弾圧、在日韓国人団体のハングスト闘争への右翼の襲撃を力こめて弾劾し、更にいっそう日朝両政府を追いつめ、金大中氏らの闘いに応えようと訴えた。こうして、集会はプリバの大合唱をはさんで、長時間にわたつて行なわれてい



在日韓国人・朝鮮人の闘いを防衛し、共同した闘いをつくりだそう!

## 12, 13 金大中氏らを殺すな! 日韓共同行動の前進を

金大中氏らに対する死刑、重刑攻撃の情勢がひび迫る中、全国各地で救出運動は発展している。すでに大法院判決の延期された十一月五日には、日本連帯会議による国民集会在七千名を集めて開かれていたが、十二月十三日には、救出署名運動や日本政府に対する抗議行動で先頭で担つてきた金大中氏らを殺すな、首都圏緊急運動主催の全国集会在、東京清水公園で行なわれた。集会には土曜日の昼ということもあり、労働者の参加がやや少ないようだったが、学生、民

集会には在日韓国人団体のゆるがめ決議のこもつた発言を受け、つづいて北は北海道から南は九